

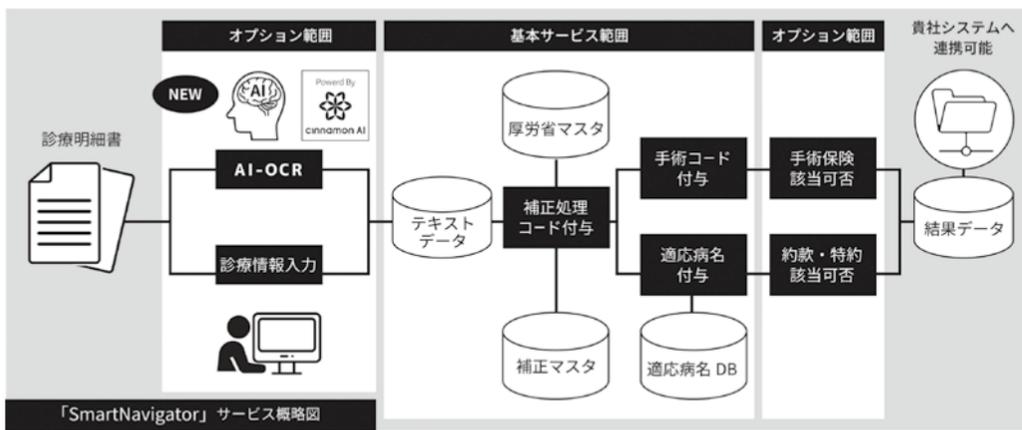
(株)アジャスト

診療明細書による支払業務効率化サービス

Smart Navigator 機能拡張

生損保会社に向けた医療情報分析や支払業務サポートソフトの開発を手掛けるアジャスト(東京都渋谷区、横溝宏昌社長)は、診療明細書による支払業務効率化サービス「Smart Navigator(スマートナビゲーター)」の機能を拡張し、4月から本格展開を開始した。新たに、保険会社からの要望が多く、また課題でもあった「診療明細書の記載内容取り込み」に威力を発揮する高精度のAI-OCRエンジンを搭載したことで、同サービス利用へのハードルが格段に下がった。

AI-OCRによる自動テキスト化機能を搭載



「スマートナビゲーター」サービスの概略図

スマートナビゲーターは、診療明細書から抽出されたテキスト情報に対し、コード付与および病名導出(特願2019-147024・保険金支払支援システム、プログラム及び記憶媒体)を行い、特約および手術保険金の支払い可否判定に必要な傷病名情報(ICD-10など)、手術情報(Kコードなど)を抽出するサービス。すでに導入している保険会社もあり、活用されている。

同サービスのポイントは、①コード付与処理②病名導出処理。診療明細書テキスト情報について「表記ゆれ」を補正したあとに、厚生労働省のマスタと突合し、適切なコードを付与する。コード付与された「診療行為」「手術名」「薬剤名」を利用し、診療報酬

算定のルールに基づき適応されるべき「傷病名」候補リストを抽出する。その後、導出ルールマスタに基づいて、対象となる傷病名の絞り込みを行う。

今回は、従来は専門業者に委ねていたサービスの前処理である「診療明細書のテキスト化」の部分にAI-OCRエンジンを搭載したことで、スマートナビゲーターをトータルサービスへと昇華させた。

アジャストでは、「保険金の支払い査定は、基本的に医師の診断書をもとに行われるが、医師が多忙で診断書作成までに時間がかかり費用もかさむ点が課題になっていた。それを解決し、迅速・適正な査定・支払いにつなげられるサービスがスマートナビゲーター。

その活用方法は大きく三つ考えられる」と話す。一つ目は、コールセンターなどでの請求可否確認・請求受付簡略への活用。二つ目は、診断書を使わない査定の実現。三つ目は請求内容の詳細チェック。

しかし、どの方法であっても、検討段階で必ずハードルとなるのが、診療明細書の画像情報からテキストデータを取り出す作業をどのように実現するかだ。同社では「画像情報からテキストデータを取り出す方法としては、これまで、手入力を行うか、OCRシステムを利用して自動的にテキスト化を行うかの二択で案内してきた。最も精度が高いのは手入力だが、多くの時間と手間を要する。一方でOCRシステムでは、処理速度が速く手間もかからないが、診療明細書は非定型の資料であり、特殊フォント等が利用されていることから、精度が著しく低くなるのが課題であった」という。また、「その精度を補う技術がAIである。AI-OCRであれば、非定型の書類でも、手書き文字でも、高い精度でのテキスト化が実現できる。今回、AI-OCRエンジンの採用に当たり、複数のエンジンでテストを実施したところ、現状で最も高い精度(行単位での適合率90%)となった

「各社とのアライアンスを行いながら、医療保険の査定業務を全体的にサポートするプラットフォームへと進化させていく」としている。

40th

ANNIVERSARY

Adjust

おかげさまで創業40周年

アジャストは、今年で創業40周年を迎えます。

これからも、お客様の課題に真摯に寄り添いながら、

客観的で信頼性の高い医療情報のご提供に努めてまいります。

webサイトが新しくなりました。是非ご活用ください!

提供サービス

- ▶ 医療相談
- ▶ 医療DB整理・分析
- ▶ 医療情報ナビ
- ▶ 診療基準情報サービス
- ▶ 医療ビッグデータ統計分析
- ▶ 簡易査定支援「SmartNavigator」

Adjust 株式会社 アジャスト

03-5447-7007

n.yokomizo@adjust-net.co.jp (営業課)

https://www.adjust-net.co.jp/

アジャスト 医療相談 🔍 検索